

「河川砂防技術研究開発」(平成25年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
津波来襲時の海岸堤防の被災メカニズム解明のための数値解析技術の開発 (研究期間: H25年~H26年)	名古屋大学 教授 水谷 法美	A
<p><研究概要></p> <p>津波・被覆工の挙動・洗掘等の地形変化・基礎地盤の応答の4者間の相互作用が解析できる数値計算モデルの構築を行った。また、被覆工の移動に関する水理実験を実施するとともに、その水理実験と国土技術政策総合研究所にて実施された1/2スケールの水理実験に適用し、開発した数値計算モデルの妥当性を検証した。さらに、東日本大震災時に実際に被災した海岸堤防を対象とした再現計算と対策実施後を想定した数値実験を実施した。</p>		
<p><事後評価コメント></p> <p>津波、被覆工、地形変化、地盤連成をモデル化し、海岸堤防の津波による被災メカニズムを解析できる数値計算モデルが構築されたことは大きな成果であり、構築された数値計算モデルが水路実験を補完するツールとして堤防設計の検討に活用できるという点が評価できる。研究目的は達成され、十分な研究成果があったと言える。</p> <p>今後、洗掘防止対策や裏法保護対策に向けて、被覆工面の圧力変化や地盤内部の間隙水圧変化の再現性を高めるなどの研究が進められることを期待する。</p> <p>なお、今後さらに研究を進展させる過程において、計算プログラム等の成果の一部をオープン化することについても検討することを期待する。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い